

令和4年度

教育行政執行方針

幕別町教育委員会

教育長 菅野 勇次

【はじめに】

令和4年第1回町議会定例会の開会に当たり、本年度の教育行政執行方針について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、一時収束に向かったものの、デルタ株からオミクロン株へと変異し、再び猛威を振るい、この間、子供たちが楽しみにしていた学校行事も縮小を余儀なくされ、教育活動そのものが多くの制限の中で行われてまいりました。

また、コロナ禍に伴い、私たちのライフスタイルや働き方も変化するとともに、社会的距離の確保のために、テレワークやオンライン化が推進され、さらには、様々な業務やサービスもデジタルに移行していくなど、社会はこれまで私たちが経験したことの無いような速度で変化を遂げようとしております。

このような急激に変化する時代の中で、子供たちが社会を生き抜くために必要な資質・能力を身に付けられるよう、学校・家庭・地域の連携と協力の下で、教育行政の推進に努めるとともに、町民の皆さんが生涯にわたって、心豊かで健康に暮らしていけるよう、芸術・文化・スポーツの活動を通して、様々な学習機会の提供と学習活動を支援してまいります。

以下、「第6期幕別町総合計画」基本計画第4章「豊かな学びと文化、スポーツで住まいる」の各節と第1章「協働と交流で住まいる」第3節について、本年度の主な施策について申し上げます。

1 豊かな人生を育む生涯学習の推進

はじめに、「豊かな人生を育む生涯学習の推進」についてであります。

町民が健康で潤いのある生活と豊かさを実感できる地域づくりを推進するためには、町民一人ひとりが生涯を通じて自ら学ぶとともに、その成果を生かすことのできる環境をつくることが重要であり、生涯学習は心にゆとりや潤いを与え、学ん

だことを生かすことで、個性が輝き、活力のある地域づくりに大きな役割を果たすことが期待されます。

このため、百年記念ホールや町民会館、図書館など生涯学習施設等の活用を図り、「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる生涯学習施策を展開するほか、一人ひとりの多様な個性、能力を生かせるよう学習情報の効果的な発信や地域の特性、年齢階層などを考慮した生涯学習講座等の充実に取り組み、生涯学習を通じた幅広い世代の交流を促進し、様々な学習機会を提供してまいります。

図書館では、「図書館を核とした地域づくり」に引き続き取り組むとともに、より快適な読書環境づくりを推進するため、図書館本館南側通路の改修や札内分館のWi-Fi環境の整備を進め、「知の拠点」としての機能強化に努めてまいります。

2 「生きる力」を育む学校教育の推進

二つ目は、「「生きる力」を育む学校教育の推進」についてであります。

社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、子供一人ひとりが創造性豊かに、たくましく生きていくためには、自律心や協調性、思いやる心などの豊かな人間性、問題を解決する資質や能力、そして健康、体力など「生きる力」を育むことが重要であります。

はじめに、「学校教育の充実」について申し上げます。

小中一貫教育の推進については、町内児童生徒の学力の維持・向上を図るため、小中学校の協働による学園内の児童生徒の習熟度分析を行い、教育課程に反映させるとともに、小中学校が協働で行う複数指導の体制づくりなど乗入授業の充実を図ってまいります。

併せて生徒指導の充実については、近年の不登校の原因の一つとして、小学校と中学校の児童生徒の「自立」に向けた指導のギャップが考えられるケースもあることから、学園内でギャップを明確にし、小学校では自立を促し、中学校では自立に向けた柔軟な指導を行うなど、滑らかな接続ができるよう不登校が心配される児童

の指導計画の検討や保護者への働きかけを協働で行うなど具体的な取組を実施してまいります。

コミュニティ・スクールの推進については、各学園において、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し連携・協働していくため、学校運営協議会を通じて理解を深めるとともに、各種活動の積極的な発信を通して、地域とともにある学校づくりを進めてまいります。

特別支援教育の推進については、特別な配慮を必要とする児童生徒の学習や学校生活を支援するため小学校6校に36名、中学校3校に7名の特別支援教育支援員と、本年度、医療的ケア児を支援するため小学校1校に看護師1名を配置するとともに、小中学校間の特別支援教育の円滑な接続を図るため、個別の支援計画や指導計画の整備、適切な運用のほか、障がいや特性に応じて目標を明確にするなどの教育課程のユニバーサルデザイン化を推進してまいります。

新型コロナウイルス感染症対策については、引き続き、国のマニュアル等に基づき感染対策を徹底するとともに、児童生徒等が感染した場合は、学級閉鎖などの措置を適切に講じ、迅速な感染拡大防止に努め、出席停止の児童生徒に対しては、タブレット端末を活用し、自宅でオンライン学習を実施するなど学びが保障されるよう対応してまいります。

I C Tの活用については、G I G Aスクール構想の実現に向け、1人1台のタブレット端末について、教科や領域の特性を十分に考慮したツールとして有効活用するため、I C Tの特性や利点を生かした授業の充実を図るとともに、教員への研修機会の提供など指導力の向上に取り組んでまいります。

学校における働き方改革の推進については、引き続き学校事務補助員を小学校7校、中学校4校に1名ずつ配置するとともに、児童生徒の学籍、出欠席、成績等の情報を一元的に管理運用ができるよう校務支援システムの導入を進め、校務の効率化による教職員の事務負担の軽減を図り、業務の平準化や時間外在校等時間の縮減に努めてまいります。

次に、「学校給食」についてであります。

学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達に資するとともに、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たしているところであります。

学校給食を食に関する指導の生きた教材として、毎年協力をいただいている農協青年部の皆さんの講話や収穫体験、給食だよりを通じ、食の大切さや食文化などの教育を推進するとともに、地場産食材を活用した「まくべつの恵み給食」の創意工夫に努め、栄養バランスのとれたおいしい給食を提供してまいります。

次に、「教育施設の整備」についてであります。

令和2年11月に策定した「幕別町学校施設の長寿命化計画」に基づき本年度から札内南小学校の校舎及び屋内運動場の長寿命化改修工事に着手し、将来にわたって長期間使用できるよう、外壁や屋根の断熱化、内装改修のほか、水道、ガス、電気等のライフラインの更新、バリアフリー化など2か年にわたり実施してまいります。

また、計画的・継続的に学校施設の長寿命化を実施していくため、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、次期対象施設として幕別小学校校舎を検討しているところでありますが、幕別学園の学校運営協議会において、小中一貫教育をより一層推進するためには、施設一体型が望ましいとの意見をいただいていることから、本年度中に保護者の意見を伺いながら施設整備の方向性を見いだしてまいります。

次に、「高等学校への支援」についてであります。

幕別清陵高等学校につきましては、本町の特色を生かした魅力ある教育活動をはじめ、社会に開かれた学校づくりが展開できるよう、これまでの各種学校活動等に対する支援に加え、昨年度に引き続き、東京大学教授による出前授業や大学生との交流を通して、学習に対する考え方や自主的・主体的な生徒会活動、地域貢献について学ぶことができるとともに、地域への誇りと愛着を持ち、地域の未来を担う人

材を育む高校となるよう支援に努めてまいります。

中札内高等養護学校幕別分校については、町内の福祉関係団体や経済団体等で組織する「地域協力会」と連携しながら、引き続き就労促進につながるよう支援を実施してまいります。

また、本年度は、開校10周年記念事業に対する支援も併せて実施してまいります。

3 青少年の健全育成の推進

三つ目は、「青少年の健全育成の推進」についてであります。

次代を担う青少年が豊かな人間性を育み、自他ともにかげがえのない存在であることを認識するとともに、社会の一員として自覚し、自ら進んで社会参加ができる健全な社会人として成長するよう、学校・家庭・地域などが連携して青少年の健全育成を推進することが必要であります。

このことから、ふるさとを愛する心を持った豊かな人間性を育むことを目指し、自然体験や郷土幕別の歴史など幅広い学習機会を通して、心身の健全な育成を図るため、「ふるさと館ジュニアスクール」や「学び隊」などを引き続き実施してまいります。

また、家庭、地域、関係機関の連携を図り、子供たちを守り育てていく活動を推進し、幕別町PTA連合会や幕別町児童生徒健全育成推進委員会のほか、子ども会などの取組に対する支援を通して、未来を担う青少年が心身ともに健やかに育つ環境づくりを推進してまいります。

4 芸術・文化活動の振興

四つ目は、「芸術・文化活動の振興」についてであります。

音楽や美術、演劇などの芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらす心豊かな

な生活を送るために欠かすことのできないものであり、その果たす役割は極めて重要であります。

このため、「百年記念ホール」の指定管理者であります「特定非営利活動法人まくべつ町民芸術劇場」と協働・連携を図り、コロナ対策を講じた上で優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するとともに、本年度は、施設の老朽化対策として大ホール舞台幕の更新工事を実施してまいります。

5 歴史的文化の保存・伝承

五つ目は、「歴史的文化の保存・伝承」についてであります。

本町の歴史的・文化的資源である郷土文化資料と、その情報を町民共有の財産として次世代に引き継ぐため、収集・保存事業とともに、特に次代を担う子供たちが郷土文化資料を通して、身近に先人の苦労や豊かな知識に触れ、ふるさとへの新たな思いを養い、幕別町への愛着と誇りを育む事業の展開が重要であります。

このため、本町の歴史的資料やアイヌ文化資料を収集、保存、展示しているふるさと館や蝦夷文化考古館のほか、貴重な全身骨格を展示しているナウマン象記念館のそれぞれの特長を生かし、郷土の歴史や文化等を学習する場としての活用を図ってまいります。

また、令和元年度から実施している足跡化石の発掘調査を引き続き実施し、昨年度の発掘で発見された足跡と思われる荷重痕について、さらに調査研究を行うほか、「幕別町アイヌ施策推進地域計画」の早期策定と同計画に基づくアイヌ文化拠点の整備に向け、蝦夷文化考古館資料の保存修復や調査研究のほか、アイヌ語講座、アットゥシ作製技術体験講座の実施に向け、幕別アイヌ協会やマクンベツアイヌ文化伝承保存会などの関係団体や町部局と連携を図りながら進めてまいります。

6 健康づくりとスポーツ活動の振興

六つ目は、「健康づくりとスポーツ活動の振興」についてであります。

本町のスポーツ施設は、札内スポーツセンターや農業者トレーニングセンターなどの屋内施設と陸上競技場や野球場のほか、パークゴルフ場などの屋外施設を設置しており、多くの町民の方が体力づくりや健康維持のため利用されております。

これまで、住民のスポーツ参加へのきっかけや健康づくりなど、スポーツを通じた元気なまちづくりを目的に、平成26年度からチャレンジデーに参加してまいりましたが、昨年度は、コロナ禍における密の回避から参加や報告の方法が変更になり、多くの町民の参加が困難と判断し幕別チャレンジデー2021を中止としたところであります。

このため、本年度から住民の方の健康寿命の延伸のため、継続してスポーツに取り組んでいただくことを新たな目的として、従来から開催しておりますパークゴルフ家族大会や公区対抗パークゴルフ大会のほか、ウォークラリー、リフレッシュ教室などの各種教室、スポーツ大会の更なる周知を図るとともに、事業の推進に努めてまいります。

また、昨年2月に策定した「第1期幕別町スポーツ推進計画」を推進していくため、関係機関等と協力・連携を図り、子供の運動・スポーツを支えるための講演会やオリンピックの学校訪問のほか、大学のスポーツ合宿誘致事業などを実施し、アスリートと創るオリンピックの町創生事業を展開してまいります。

7 国内交流や国際交流の推進

最後に、「国内交流や国際交流の推進」についてであります。

国内交流につきましては、次世代を担う人材を育成するため、埼玉県上尾市、神奈川県開成町及び高知県中土佐町と小学生の派遣・受入れの相互交流を毎年実施しております。

コロナ禍の影響を受け2年連続で中止としておりましたが、交流する1市2町と

協議の上、本年度は、上尾市、開成町と中土佐町からの受入れを実施することに加え、本町からも中土佐町に児童15名を派遣するよう準備を進めてまいります。

また、本年度も国際的視野を広め将来国際社会に貢献できる人材を育てることを目的として、中学2年生16名、幕別清陵高等学校1年生3名、合わせて19名を対象にオーストラリアのキャンベラ市との相互交流を予定しておりますが、コロナ禍により派遣できない場合は、代替えの交流事業について検討してまいりたいと考えております。

【むすびに】

以上、令和4年度教育行政執行に当たっての基本方針を述べさせていただきました。

これまで当たり前であった日常がコロナ禍によって大きく変わり、社会構造の変化の中で先を見通すことがなお一層難しい時代となっておりますが、子供たちが自らの可能性を發揮し豊かな人生を切り拓くことができるよう育んでいくことが重要であります。

教育委員会といたしましては、町民の皆さんが生き生きと学び続けることができるよう支援するとともに、子供たちが豊かな創造力を備え、たくましく成長していくことができるよう、学校・家庭・地域をつなぐ教育行政の推進に全力で取り組んでまいり所存であります。

議員の皆さん並びに町民の皆さんのご理解とご協力を心からお願い申し上げまして、教育行政執行方針といたします。